

集落営農法人及び園芸産地等における就業者確保対策の展開【R5】

【下関地域】（下関市）

中山間地農業
ルネッサンス
推進支援

収益力向上

販売力強化

農用地保全

複合経営

生活支援

デジタル技術の
活用

元気な地域創出モデル支援

【地域の現状・課題】

【概況】

- 下関市内には令和4年度末までに36の集落営農法人が設立され、地域の実情に応じた品目選定や作付計画により独自の経営を展開
- 下関市は地域の特色・条件を活かした県下有数の園芸産地でもあり、様々な野菜・果樹・花きが栽培されている。

【課題】

- 多くの集落営農法人において構成員の高齢化に伴う人材不足が顕在化
- 園芸産地においても高齢化の進展から栽培面積・生産量ともに減少傾向
- 事業の継続性に対する危惧、産地(部会等)とその活動の維持に対する懸念

【地域の位置】

【下関地域】（下関市）

[指定地域：特定農山村、振興山村、過疎等]



中山間地農業ルネッサンス推進事業

新規就業者の受入環境・体制を整備

- 関係機関の連携を強化し、新規就農・就業者の募集だけでなく、集落営農法人や産地としての受入環境・体制を整備

【新規就農・就業者確保対策の展開】

- ◆農業振興協議会担い手部会で担い手確保対策に取り組むことを確認（関係機関の役割分担の再整理）
- ◆支部会単位で就農等に係る情報を整理・共有化
- ◆体験研修受入先の拡大などを実施
- ◆県域・首都圏のガイダンスに加え、市独自の募集活動を実施

【集落営農法人就業者の定着支援】

- ◆就業者に対する栽培技術指導等の実施（フォロー）
- ◆雇用先法人に対する人材育成に対する意識醸成

【園芸産地における新規就農者受入体制整備】

- ◆新規就農者に対する技術指導（フォロー）
- ◆栽培における課題解決による技術の高位平準化
- ◆サポート体制の検討・募集活動の実施

事業完了後の展開

実証事業の成果を活用した取組

新規就業者の募集と定着支援

【新規就農・就業者確保対策の展開】

- ◆引き続き情報共有を進め、地域独自の募集・PR活動を継続・発展させていく

【集落営農法人就業者の定着支援】

- ◆継続的に人材育成及び事業継承に係る検討を実施。雇用をすることを前提とした中期の営農計画の策定を支援

【園芸産地における新規就農者受入体制整備】

- ◆部会活動の活性化を図り、農業体験などの受入れの支援を継続
- ◆産地としての募集活動の実施や新規就農者の指導体制を検討

事業の効果

独自ガイダンス実施と受入体制整備

【新規就農者・就業者確保対策の展開】

◆定期的な募集活動への参加が定着

	R5
就農FEST等	対面2回 オンライン2回
やまぐち就農 ガイダンス	2回 4法人出席(のべ)

◆市独自の募集・PR活動を実施



・農大学生に対し担い手組織等の説明会を実施

・参加者(担い手)には事前に人材確保やPRシートの内容などの勉強会を実施



- ◆産地の情報収集を行い、体験研修受入先の拡大や雇用意向法人に対し就業規則の作成支援などを実施

【集落営農法人就業者の定着支援】

- ◆雇用法人に対し、雇用に関する先発事例の紹介・視察などを行うことで、雇用及び人材育成に対する意識が高まった。

【園芸産地における新規就農者受入体制整備】

- ◆新規就農者については概ね計画どおりの生産を実施
- ◆部会の抱える技術的な課題の抽出が行われた。また新技術の導入による収量増などの事例も生まれた
- ◆市の事業活用などによる体験研修の受入れなどにより、研修受入体制や指導体制の検討が進んだ

新たな担い手による山口あぶトマト産地の育成【R5】

【萩市むつみ地域】(萩市)

中山間地農業
ルネッサンス
推進支援

元気な地域創出モデル支援

収益力向上

販売力強化

農用地保全

複合経営

生活支援

デジタル技術の
活用

【地域の現状・課題】

- 山口あぶトマト部会高俣支部は生産者の高齢化やリタイヤにより、生産者数、栽培面積が減少し、産地の縮小が懸念されている。
- 産地の維持発展のため、新規就農者の確保育成や、中核生産者の育成、後継の確保に向けた取組を実施する必要がある。

【課題】

○ 担い手の確保・育成

- 新規就農者の受入強化
- 新規就農者の早期経営確立

中山間地農業ルネッサンス推進事業

部会・関係機関が一体となった募集活動、就農者の育成

【新規就農者の受入体制の検討】

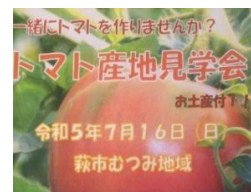
- 就農受入に必要な研修体制、新規就農者に求められる条件についても協議した。

【就農希望者の募集活動】

- R4年度、トマト就農希望者を対象にトマト講座を3回開催した。
- 募集から開催まで関係機関で連携して準備にあたった。
- R5年度は、県内向けと県外向けに募集活動を行った。就農に関心のある者も現れている。

【新規就農者の早期経営安定に関する取組】

- 新規就農者に対して、栽培講習会・巡回、個人面談(R1~R2)、巡回訪問研修(R3~R4)、部会役員主催の若手栽培者合同研修会(R4~5)を行った。



トマト産地見学会募集チラシ



新規栽培者訪問研修

事業完了後の展開

実証事業の成果を活用した取組

募集活動の強化と新規就農者の経営確立

- 移住担当部所との連携を深め、募集活動を強化する。
- 部会活動が若手農家の課題解決の場づくりとなるように仕向け、単収向上につなげる。



移住部所との連携



若手情報交換会

【地域の位置】

【萩市むつみ地域】(萩市)

[指定地域：特定農山村、山村振興、過疎]

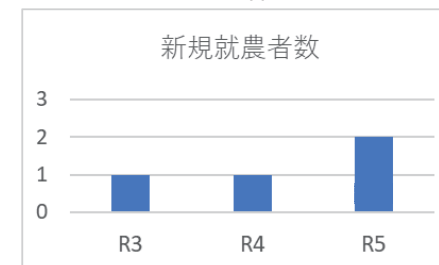


むつみ
高俣地域

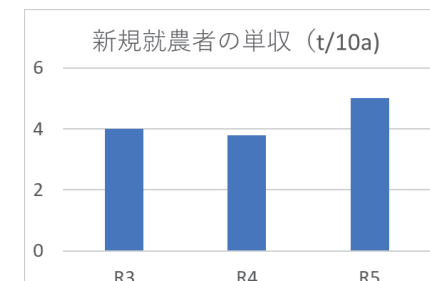
事業の効果

新規就農者の確保・育成

- 令和5年度は2名(うち1名はIターン)の新規就農者を確保



- 部会役員が主体となり若手生産者の研修会、情報交換会を開催し、生産者主体の産地づくりのムードが高まった。また、栽培者同士の横のつながりが増えた。
- 新規就農者の技術力向上が窺えた。



農業中核経営体の確保及び経営基盤強化による持続的な地域農業の推進

【R5～6】

【岩国地域】(岩国市)

中山間地農業
ルネッサンス
推進支援

元気な地域創出モデル支援
収益力向上 販売力強化 農用地保全 複合経営 生活支援 デジタル技術の活用

【地域の現状・課題】

- 岩国地域の農業中核経営体は40経営体あり、その75%が株式会社や合同会社、有限会社で、個別法人経営が多く、その経営体が地域農業の維持に貢献している。
- しかし、設立間もない農業中核経営体においては、経営基盤が脆弱で技術的、経営的、労働力的な問題から、早期経営安定が喫緊の課題である。
- さらなる担い手の確保や、農業中核経営体の栽培技術や経営改善に向けた重点指導を行い、持続可能な地域農業に向けた取組みが必要である。

中山間地農業ルネッサンス推進事業

担い手の把握と意向確認、重点指導による経営基盤強化

【元気な地域創出モデル支援】

- 地域計画に基づく担い手の確保
 - ・担い手のリスト化、重点支援地区の選定、地域営農の方向性を協議、個別経営体の法人化意向の確認
- 栽培技術の向上により安定的な収量を確保できる農業中核経営体支援
 - ・経営状況や栽培計画に基づいた対策の協議、実証ほの設置による技術指導や専門家派遣の活用、事業検討等の実施



重点支援地区の協議の場



サツマイモの排水対策



実証試験：わさびの根こぶ病対策

事業完了後の展開

実証事業の成果を活用した取組

担い手の確保と技術・経営の改善による持続的な地域農業の推進

- 地域計画に位置付けられる担い手の確保と法人化に向けた段階的支援への展開
- 地域のけん引役である農業中核経営体の安定的収益確保による地域農業の維持・発展



地域計画策定に向けた意見交換



安定収益に向けた環境モニタリング装置の導入推進



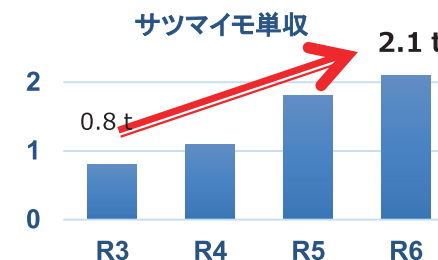
スマート農機を活用した効率的作業体系

事業の効果

地域農業の維持と経営基盤の強化

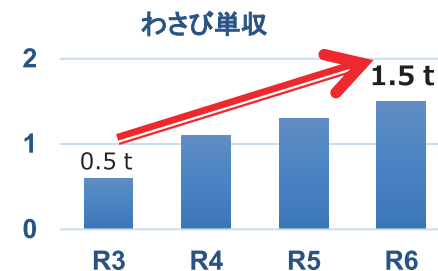
- 個別経営体2戸の将来的な法人化意向を把握
- 重点的な技術指導等による単収の増加
 - ・排水対策や技術指導による収量の確保

法人Aの経営品目の単収実績(t/10a)



- ・実証試験等による収量の増加

法人Bの経営品目の単収実績(t/10a)



【地域の位置】

【岩国地域】(岩国市)

[指定地域： 特定農山村、山村振興、過疎 等]



岩国地域

女性経営者の育成【R5～6】

【宇部・美祢地域】(宇部市・美祢市・山陽小野田市)

中山間地農業
ルネッサンス
推進支援

元気な地域創出モデル支援

収益力向上

販売力強化

農用地保全

複合経営

生活支援

デジタル技術の
活用

【地域の現状・課題】

- 宇部・美祢地域には、新規就農者やその妻等で、経営や販売に関心を持つ女性が点在しているが、学習の機会が少なかったり、家事や育児、農作業に時間や手を取られ、その能力や意見が経営に十分に反映されている状況とは言えず、また、同じ環境の仲間同士で情報交換する場もない状況であった。
- 各経営体が更なる発展を遂げるためには、女性自身が能力を発揮し、自ら判断し主体的に農業経営に参画することが必要である。
- そこで、主体的に農業経営に参画する女性経営者の育成を目的に、H30年度から、資質向上のための研修会（同じ志を持つ同世代の仲間と情報交換や共磨きできる場）の開催支援、R5年度からは、次のステップとして、自らが企画し販売する実践活動（マルシェの開催）の場づくりを支援した。

中山間地農業ルネッサンス推進事業

【女性経営者の育成に向けた実践活動の支援】

- 資質向上にむけた研修会の開催
事前アンケートを取りながら、経営訪問、経営管理、雇用管理、マーケティング、作業場改善等、様々な内容での研修を実施。これまで知らなかった同世代の活躍や意見を知り、新たなつながりを作る場となった。



作業場改善研修会の様子

- 自らが企画し販売する実践活動の場づくり(マルシェの開催)
研修会を続ける中で、「自分たちが作った商品を直接、消費者にPRし販売する場、評価を聞く場が欲しい」、「新たな顧客の確保につなげたい」、という意見が出てきた。そこで、自分たちでマルシェを企画開催することで、自信と意欲の醸成を図り、判断できる経営者としての育成を図った。研修会やマルシェを通じて、経営意識や意欲の向上につながり、新たに商品開発や経営改善に取り組むメンバーも出てきた。



マルシェの様子（山口宇部空港ふれあい公園）

事業完了後の展開

実証事業の成果を活用した取組

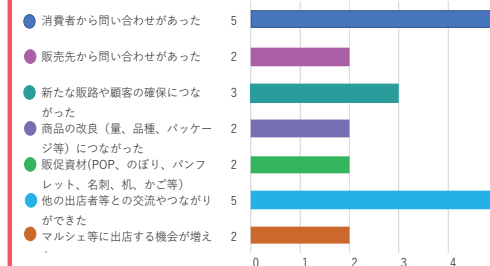
- 新たな連携活動への発展
マルシェの実施を通じて、開催場所の山口宇部空港を管理する企業より、雨天の場合の空港軒下での開催や空港のイベントへの参加、空港内店舗での商品の取扱いについて連携の提案があり、次の展開へとつながりつつある。メンバーの参加意向を把握しながら、効果的な連携活動や次のステップへの支援を行う。
- 女性リーダーの育成
若い女性の活動が認知され、メンバーから、農業委員1名が選任、山口県農村生活改善士2名が認定された。引き続き、女性経営者の育成及び地域で活躍できる女性リーダーの育成を行う。

事業の効果

○ マルシェの効果

- ・経営意識や意欲の向上
- ・顧客の確保等

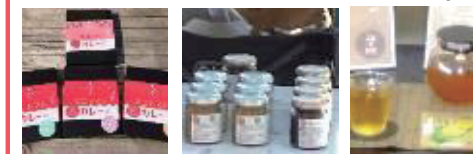
<出店者アンケート>



<自由意見>

- ・冷蔵（冷凍）商品の取扱いや年間を通じての出荷等を考えなければいけないなど勉強になり、今は、常温でも販売できる商品の開発に取り組んでいます。
- ・オリジナルグッズなども販売できると良い。
- ・SNSのフォロワーが増えた。もっと効果的なSNSでの情報発信の方法を習いたい。

○ 開発された新商品（一部抜粋）



カレー

ジャム

コーン茶

○ 女性リーダーの育成

- ・女性農業委員1名
- ・山口県農村生活改善士2名

【地域の位置】

【宇部・美祢地域】(宇部市・美祢市・山陽小野田市) [指定地域：特定農山村、振興山村、過疎等]



スマート農業技術の普及推進活動について【R5～6】

【長門地域】(長門市)

中山間地農業
ルネサンス
推進支援

元気な地域創出モデル支援

収益力向上

販売力強化

農用地保全

複合経営

生活支援

デジタル技術の
活用

【地域の現状・課題】

1 地域の現状

- 地域農業を支える法人等中核経営体の多くが、高齢化による労力不足の問題を抱えています。
- 一部法人では新規雇用や地域の人材の活用により、労力確保に尽力しています。

2 課題

- こうしたことから地域農業の維持・発展を図るためには「少人数で効率的な作業が行える仕組みづくり」「人材の早期育成を容易とする仕組みづくり」が課題でした。
- その課題解決にスマート農業技術活用が有効と判断し、関係機関と連携して技術の早期普及を目指した取組みを開始しました。

中山間地農業ルネサンス推進事業

課題解決に資するスマート農業技術の紹介活動 (R 4 ～)

- 新技術紹介(実演会の開催)
法人等中核経営体をターゲットに省力化、作業少人化及び作業支援技術(直進アシスト等)をテーマとした新技術の実演会の開催を支援しました。
- 技術導入マニュアル、技術紹介動画の作成、配付
実演会で紹介した技術に関する技術導入マニュアル(導入時の留意点、費用対効果の考え方等)並びに技術紹介動画を作成し、技術の理解促進を支援しました。



実演会の様子 (R 4)



報告会の様子 (R 5)

事業完了後の展開

実証事業の成果を活用した取組

スマート農業技術の普及促進の仕組みづくり活動(R 5 ～)

- 普及組織から新技術の試用事業創設を提案し実現
技術紹介や試用事業創設等を通じて、関係機関連携のもと、技術普及までの一連の流れ(見せる⇒試す⇒導入する)を構築しました。

見せる

実演会、
マニュアル配付等 (R4～)

試す(創設)

長門市スマート農業
技術試用事業 (R5～)

導入する

単市補助事業(R 1 ～)

事業の効果

- 1 技術導入マニュアル及び技術紹介動画の作成、配付
技術紹介に加え、導入費用やランニングコストを踏まえた導入メリットの判断材料を中核経営体に対しての提示を支援しました。

長門市 × スマート農業	
スマート農業技術スタートアップマニュアル	
令和4年度 長門市未来農業創造協議会	
目次:	
I 紹介機種のまとめ	P 1～2
II 水位センサー	P 3～9
III ラジコン草刈機	P 10～14
IV 収量・食味コンバイン	P 15～20
V 直進アシストシステム (KSAS)	P 21～27
VI GPS車速連動ブロードキャスト	P 28～31
VII 水稲播種直進制御	P 32～36
VIII 直進アシスト機能付き作業機	P 37～43
IX 技術紹介	
1 水位センサー	P 44～46
2 ラジコン草刈機	P 47～48
3 収量・食味コンバイン、KSAS	P 49～51
4 GPS車速連動ブロードキャスト	P 52～54
X 令和4年度 水稲播種直進制御実証結果	P 55～57

技術導入マニュアル



技術紹介動画

- 2 スマート農業技術の普及状況
取組みを開始した R 4 以降、技術紹介、試用事業、補助事業が有効に機能し、技術の導入が進んでいます。

農業用 ドローン	収量 コンバイン	直進アシスト 田植機	水位 センサー	KSAS	ザルビオ	ラジコン 草刈機
4	2	7	2	2	4	1

スマート農機の活用支援による中核経営体の収益力向上【R5～7】

【岩国地域】(岩国市)

中山間地農業
ルネサンス
推進支援

元気な地域創出モデル支援
収益力向上 販売力強化 農用地保全 複合経営 生活支援 デジタル技術の活用

【地域の現状・課題】

- 岩国地域では農業者の高齢化が進む中、作業の効率化や品質の向上等を目的に、ドローンをはじめ、直進機能付き田植え機や営農管理システム等の導入が進みつつある。
(スマート農機導入件数
R2：10件→R7：48件)
- しかし、スマート農機導入後のサポート体制が十分ではなく、導入した各種スマート農機の性能が、十分発揮されていない事例も発生している。
- 経営的、労働力的な問題から、利用する農業者のスマート農機に関する技術や知識の習得が課題である。

中山間地農業ルネサンス推進事業

スマート農機の効率的利用に向けた技術や知識の習得支援

- ITリテラシー向上への支援
 - ・中核経営体が営農支援システムの使用法を習得するため、メーカーや関係機関と連携した操作説明会の開催
 - ・スマート農機の有効活用に向けた通信環境の整備支援
- スマート農機の効率的利用による営農体制の強化
 - ・ほ場管理と作業記録のデータ活用により、作業の効率化が図られた結果、受託作業面積が増加
 - ・収量コンバインと営農支援システムの活用により、小麦のほ場ごとの子実蛋白含有率が把握でき、高品質な小麦生産を実現

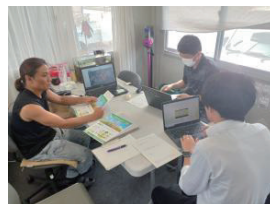


事業完了後の展開

実証事業の成果を活用した取組

スマート農機導入の促進及び技術普及

- スマート農機の取得推進の加速化
- 伴走支援や現地研修会の開催を通じた技術の普及



データを活用した経営改善支援



ドローンの現地研修会

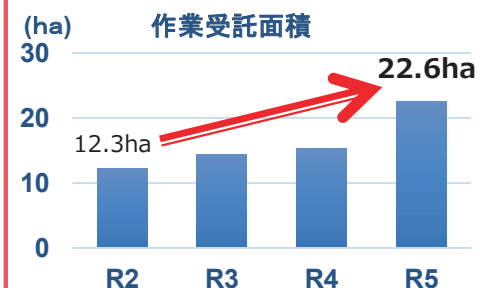
事業の効果

スマート農機の効率的利用による収益力向上

- 営農支援システムの使用法習得により、作業進捗状況を「見える化」



- リアルタイムでの状況確認により作業が効率化し、受託作業面積が増加



- 収量データに基づいた施肥により、小麦の子実蛋白含有率12%以上、実収量平均420kg/10aを維持

【地域の位置】

【岩国地域】(岩国市)

[指定地域：特定農山村、山村振興、過疎等]



周南地域いちごモデル農家の育成【R6～7】

【周南地域】（光市・周南市）

中山間地農業
ルネサンス
推進支援

元気な地域創出モデル支援
収益力向上 販売力強化 農用地保全 複合経営 生活支援 デジタル技術の活用

【地域の現状・課題】

- 周南地域ではいちご、トマト等の果菜類の栽培を推進しており新規就農者を確保してきた。
- いちごにおいては高齢化等により生産者が減少しているため、更に新規就農者を確保する必要がある。そのためにも、いちごにおいて優良事例が必要であった。
- しかし、対象農家においては、病害等による良質苗不足、適正な栽培管理ができていないことから目標単収が確保できていなかった。また面積拡大にともない労働時間が増加してきた。
- そこで、栽培管理等の改善による収量向上や作業の効率化により経営改善を行い、いちごモデル農家として育成することにした。

【地域の位置】

【周南地域】（光市・周南市）

〔指定地域：農林統計上の中山間地域等〕



中山間地農業ルネサンス推進事業

【いちごモデル農家の栽培改善】

- 良質苗の確保に向けて、炭そ病対策のため育苗方法改善の提案

- 実証ほ等を設置して生育調査とモニタリング装置を活用したハウス内環境の把握し、栽培管理の問題点を分析

- 施肥体系の実証ほ等により日射比例灌水や施肥管理の改善を検討

- 地域外の高収量農家とのモニタリングデータ共有と現地研修会開催による技術交流、栽培コンサルティングとの連携による技術知識習得



【いちごモデル農家の作業改善】

- 労働時間が最も多い、出荷調製作業の現状把握と問題点を専門家等と分析

事業完了後の展開

実証事業の成果を活用した取組

- 採苗方法の改善、育苗施設の拡大
- モニタリング装置の導入とハウス内環境の改善
- 本ほにおける灌水、施肥管理の改善
- 生産者自ら生育調査やデータ確認を実践し、適正な栽培管理を実践
- 照度や作業台の高さの改善、作業場レイアウトの提案と実践支援



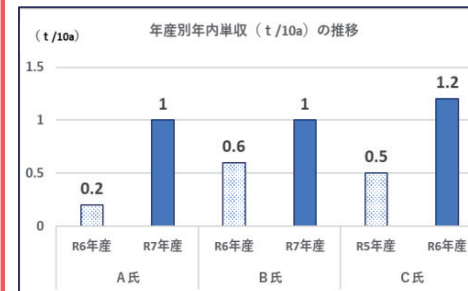
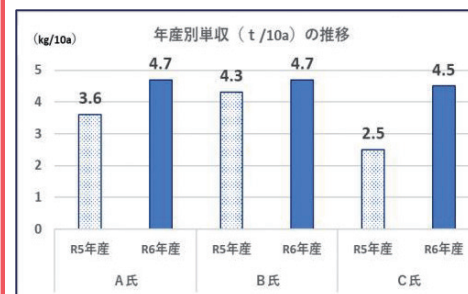
モニタリング機器の導入



作業場レイアウトの検討

事業の効果

- 3名の単収が向上。また、単価が高い時期である年内収量が大幅に増加し、収入が向上



- 継続的な地域内外の生産者との情報共有や技術習得できると環境づくりができた。

- 作業環境が改善され、作業効率が向上



- J A、市において、いちごモデル農家として位置づけられ、産地ツアーを行う等いちごの募集活動に積極的になった。

地域を支える法人の経営発展と持続可能な営農体制づくり【R6～7】

【下関菊川地域】(下関市)

中山間地農業
ルネサンス
推進支援

元気な地域創出モデル支援

収益力向上

販売力強化

農用地保全

複合経営

生活支援

デジタル技術の
活用

【地域の現状・課題】

【現状】

○下関市菊川地区は14法人（農事組合法人8、株式会社5、その他1）が水稻、小麦、大豆、加工用キャベツ等の土地利用型作物を主体に経営を展開。

【課題】

○農事組合法人では、構成員の高齢化等に対応し営農体制を維持していくため今後の運営方針等の検討が必要な状況
○株式会社では、経営規模拡大に向けたスマート農業や新たな栽培技術導入、新規就業者の確保を積極的に実施
○農事組合法人や株式会社が一堂に会する法人協活動のさらなる活性化

中山間地農業ルネサンス推進事業

○農事組合法人に加え、株式会社4法人への普及活動割合を拡大

【持続可能な営農体制づくり】

◆農事組合法人モデル2法人
・資源点検および点検結果を踏まえた向う5年間の地域計画策定を支援



乾田直播播種作業

【攻めの農業経営による経営発展】

◆株式会社
・スマート農業取組支援
・新たな栽培技術への取組支援
・新規就業者の確保支援
・事業継承予定法人への支援



成熟期の乾田直播ほ場
& 水位センサー

【新たな営農体制づくり】

◆山口県農協下関集落営農法人協議会菊川地区連携協議会
・集落営農法人と株式会社での研鑽・検討を支援

事業の効果

◆プロジェクト活動の展開

農事組合法人に加え、株式会社を加えた重層的な営農体制の可能性を確認し、次年度の普及活動の展開につなげることができた。

◆持続可能な営農体制づくり

農事組合法人モデル2法人において向こう5年間の中期経営計画を作成し、他の法人への取組拡大の参考事例を整備した。

◆攻めの農業経営による経営発展

・新規就業者を確保（R8:1名、内定）
・新たなスマート機器の普及を行えた。
・営農管理システムを活用した経営改善事例を整理し今後の取組拡大の資料を整備した。

◆新たな営農体制づくり

農事組合法人と株式会社の組織運営状況や営農状況の情報交換等を通じて連携が深まった。



事業完了後の展開

実証事業の成果を活用した取組

菊川地域の農業活性化にむけた取組の深化

○主要な担い手である農事組合法人に加え、攻めの農業経営を行う株式会社等を加えた重層的な営農構造構築の可能性を確認

→下関市内全域で攻めの11経営体を確認

○菊川地区の枠組みを下関市内全域へ展開

→現在、地区別となっているプロジェクト体制を課題別プロジェクト体制へ組直すべく部内協議等を実施

→今後、市内全域を対象に集落営農法人と株式会社等による重層的営農体制確立を目指し普及活動を展開

【地域の位置】

【下関市菊川地域】(下関市)

[指定地域：農林統計上の中山間地域]



菊川地域

萩市佐々並地域における法人連携の推進【R5～7】

【萩市佐々並地域】(萩市)

中山間地農業 ルネッサンス 推進支援	元気な地域創出モデル支援					デジタル技術の 活用
	収益力向上	販売力強化	農用地保全	複合経営	生活支援	

【地域の現状・課題】

○地域の現状

- ・水稻を中心とした農業生産が行われており、昭和60年から基盤整備を実施。
- ・平成7年に第3セクター方式で農作業受託法人が設立され、その後、平成22年から4つの集落営農法人が設立。
- ・構成員の高齢化等から法人経営の継続性に不安が生じていることから、令和4年度に上記5法人により集落営農法人連合体「アグリネットささなみ」を形成。

○地域の課題

- ・経営継続に不安を抱える法人が近隣法人に事業承継したい意向であるものの、現状では連合体内での解決は困難な状況。
- ・地域内では、連合体中核法人である農作業受託法人への期待が大きい一方で、経営状況や人員確保の面で課題がある。

【地域の位置】

【萩市佐々並地域】

【指定地域：特定農山村、振興山村、過疎】



中山間地農業ルネッサンス推進事業

事業承継に向けた農外企業とのマッチング及び研修支援（R6～）

- 事業継続に不安のある法人と市内農外企業とのマッチング
 - ・市役所とともに両者のマッチングを支援し、将来的な事業承継の合意を得た。
- 農外企業役員を対象とした研修支援
 - ・当該法人や連合体中核法人、地域農業者が水稻栽培管理や機械操作を指導した。
 - ・普及は水稻生育調査や座学を通じて、水稻栽培の基礎知識習得を支援した。



トラクタ操作講習

連合体構成法人の状況確認と地域の営農体制の検討支援（R7）

- 5法人を対象とした資源点検の実施
 - ・各法人の資源(ヒト、トク、モノ、カネ)を整理し、今後の法人運営の展開方向を確認。
- 資源点検結果の共有
 - ・連合体運営協議会において結果を共有。
- 地域全体の営農体制検討の場づくり
 - ・運営協議会のほか、地域の農業関係者を幅広く参集した将来の営農体制に係る協議会を設置。



アグリネットささなみ
運営協議会

事業完了後の展開

実証事業の成果を活用した取組

農外企業役員を受け入れた法人の円滑な運営と将来展開への支援

- ・農外企業役員の参加による事業継続に不安のある法人の経営継続に向けた取組を開始したが、両者の不安感解消に向けた継続的な支援が必要である。

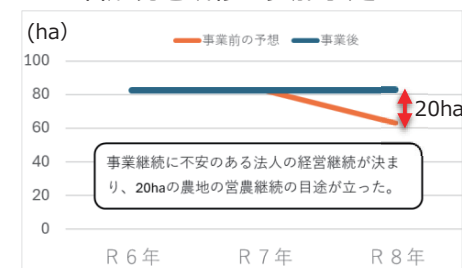
連合体中核法人を核とした持続可能な地域営農体制の構築支援

- ・将来にわたり5法人の営農が継続できるよう法人連携の推進や連合体中核法人の経営改善や人材確保に向けた支援を引き続き行う。

事業の効果

事業承継意向法人の経営継続

- 農外企業役員組合加入
 - ・農外企業役員が集落内の農地を取得し、当該法人に加入。
 - ・農外企業役員の理事就任並びに将来的には代表理事就任による経営承継を目指すことを役員会で合意。
 - ・R8年から、新たに農外企業職員2名が現地研修に参加予定。



＜連合体構成法人の経営面積の推移＞

地域営農体制の検討に向けた機運の上昇

- 地域全体での問題意識の高まり
 - ・事業継続に不安のある法人の経営継続を通じて、他の連合体構成法人も人材や経営的な課題を改めて認識するとともに、地域協議の場を通じて、地域全体の営農体制について考える機運が高まった。
- 今後の営農体制に係る協議の開始
 - ・今後も継続的な検討、協議を通じて、地域営農の在り方を模索するとともに、連合体中核法人の経営改善、人材確保に向けた準備を進める必要がある。

薬用作物の生産拡大に向けた取組【R5～7】

【阿武町福賀地域】（阿武町）

中山間地農業
ルネッサンス
推進支援

元気な地域創出モデル支援

収益力向上

販売力強化

農用地保全

複合経営

生活支援

デジタル技術の
活用

【地域の現状・課題】

- 阿武町の2法人で薬用作物（トウキ、シャクヤク、ヒロハセネガ）3品目を生産
- 生産拡大を目指す中で、トウキ・シャクヤクについては作業負担が大きいこと、ヒロハセネガについては、種子の発芽が不確実なことが問題点となっている。

【課題】

- トウキ・シャクヤクにおける作業の省力化
- ヒロハセネガにおける出芽率向上

【地域の位置】

【阿武町福賀地域】（阿武町）

[指定地域：特定農山村、過疎]



福賀地域

中山間地農業ルネッサンス推進事業

現地での生産支援と課題解決に向けた試験研究の実施

【山口県薬用作物生産出荷協議会における取組】

- 栽培期間中には、生産者と関係者でほ場巡回を行い、生育状況の確認や栽培指導を実施
- 総会では、関係者間（生産者、大阪生薬協会、JA、行政）で生産に関する情報交換を実施



情報交換の様子

【課題解決に向けた試験研究の実施】

- 山口県農林総合技術センターにてヒロハセネガの適正な採種時期・播種時期の検討に向けた試験を実施



ヒロハセネガ試験の様子

事業完了後の展開

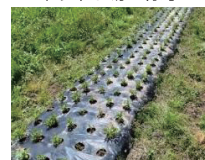
実証事業の成果を活用した取組

薬用作物の栽培技術確立による生産拡大

- トウキ・シャクヤクにおける栽培管理作業の技術確立により、作業の省力化を進め生産量の増加につなげる。
- ヒロハセネガの採種から播種に関する技術確立により、出芽率を向上させ、生産量の増加につなげる。



トウキほ場の様子

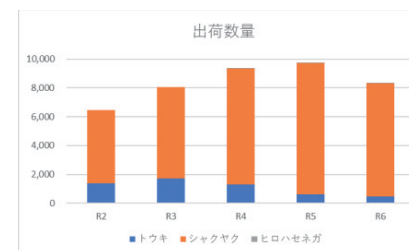


ヒロハセネガほ場の様子

事業の効果

薬用作物の生産と技術確立

- 令和5年度までは生産量が年々拡大、令和6年度については一時的に減少しているものの、令和7年度産については増加する見込み



- 令和5年度及び令和7年度に栽培マニュアルを改訂
また、今後も継続して実施している試験研究の結果に応じて改定予定

